

友の会会報

共同企画展「私の宝物」のご案内

- 1 期間 11月21日(土)～1月31日(日)
- 2 趣旨 会員が所有する資料を展示し、広範な生涯学習の場としての博物館機能をより高めるとともに、県民に親しまれる博物館を目指します。
- 3 展示構成 第一部 わたしのたからもの
第二部 わが家の宝物
第三部 博物館の宝物
第四部 写真パネル／懐かしい冬の風景
- 4 リーフレット／小冊子の発行
- 5 その他
* 期間中、関係者によるミニ解説会を予定しています。

【展示資料から】



天童市小路、佛向寺境内の「満月の碑」

仏教天文学を記した「萬月の碑」は、静岡宝台院(15代徳川慶喜が將軍職返上後謹慎した寺)住職義誉上人(山形船町出身)が碑文をしたため建立したものである。



(前略) 佛法之天学ニ志し激發スル人出来候儀も可有之哉寸情ニ御座候、右等之義ニ付、此節勘考候処数多の僧俗ニ為見候二者、中野より歟天童之方尚敷候哉共存附候、大通りと申末山も有之、殊陣屋も有之候得者、自然儒者抔も有之道理(後略)

「博物館と私」

山形市 庄司英樹

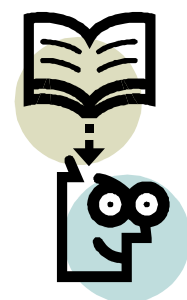
山形県立博物館が開館準備に追われていたころ出入りする機会がありました。のちに上山市長を勤めた鈴木啓蔵さん、鳥類研究の高橋多蔵さんや馬の彫塑を得意とする村川信夫さん達が忙しくしていたのを記憶しています。完成時には安孫子藤吉知事が中庭で行われた **TV** 中継で建物と展示内容を誇らしげに語っていました。正面の階段をのぼったところにある明治・大正時代の重厚な趣の飾り棚、旧県庁時代に知事室か副知事室においてありました。山形美術博物館はこの開館を契機に山形美術館と名称を変えました。

中学校のころ、社会科の先生の授業が面白く、雪解け期に山の斜面を見ると鎌などがあると教えられ、実際に発見できたことがきっかけで博物館を訪れるのが楽しみになりました。私の父(鶴岡)は安月給ながら勤め帰りに古書店に立ち寄るのを楽しみにしていました。あるとき「こんな本まで売りに出ている」と半ばあきれ顔で鶴岡朝暘第一小学校の学校印が押印の和本を持ち帰ってきました。父は戦時中には「正法眼蔵」と「大蔵経」の全巻をリックサクに入れて非常持ち出しにしていました。これらの本を跨いだ時は激しく叱られました。また、「儲かった」といったときには「子どもの癖に、儲かった、損したとは何事だ」とたしなめられたものです。県自然環境保全審議会議長、県総合学術調査団長などを歴任した山形新聞編集局長の大平楨介(おおひらていすけ **1901～1980**)さんは山形新聞紙上に掲載の「気炎」「日曜随想」を収めた著書「その日 その日」(山形新聞社 昭和 **54** 年刊)に「私の育てられた時代はゼニカネの話など下衆の下衆」と書いています。

父の死後に部屋を埋めつくすような量の本は兄弟で分け合い、私は明治の教科書類をもらってきました。和本は「錦絵修身談」(明治**17・1884**年 山名留三郎・増川蚶雄・辻 敬編)**4**巻、「尋常小学修身書 児童用」(明治**43・1910**年 文部省)**6**巻等です。「錦絵修身談」はこどもに興味を持たせようと錦絵を配し和漢洋の美談を盛り込んだ編纂です。「儲かった、損した」といって親に叱られたのは、こうした修身の教科書が根底との想いをもちました。

年齢を重ねるに連れて身辺整理を思い立ちました。これら教科書類は骨董市などでは見向きもされない現状でその価値はわかりませんが、親の気持ちを役立てたい、貴重な資料の私蔵は死蔵と**10**年前に**64**冊を県立博物館に資料として寄贈しました。担当者には「学校印が押されているけれど、決して盗んだ本ではない。学校側で整理してときにでも古本屋に出したのではないか。私の親が買い求めていた教科書です」と伝えました。「錦絵修身談」をインターネットで調べると国立国会図書館には**6**巻となっていますので県立博物館に寄贈したものは**5・6**巻が欠落した不ぞろいということになります。米国に行った時に博物館に行きましたが歴史の浅い国で展示物は近年のものばかりでした。これに比べてアテネの国立考古博物館の展示物には圧倒されました。素人考えながら、人類が最初に手がけたのは「鎌」「器」「壺」つくりで、これは共通しているのではないか思いました。

(2009年7月)



博物館にて思ったこと

研究員 秋葉正任

今春の人事異動により、米沢興譲館高校より博物館に赴任し、民俗部門担当になりました秋葉といいます。まだまだわからない事だらけであり、ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、今後ともよろしくお願いします。

今年の3月、いままで学校現場に勤めてきた私にとって博物館勤務を命ぜられたことは、不安以外の何ものでもありませんでした。博物館の場所は知っていたものの、博物館で何をやるのだろう・・・、担当する民俗とは何なんだろう・・・という思いで一杯でした。(ジョークですが、離任式で「人類代表として博物館に展示されます」と挨拶してきました。) そんな私ですが博物館に勤めて半年の感想を書きたいと思います。

第一に、常に様々なものに関心を持ち、「なぜ」と思うことが大切であることを学びました。学芸員にとって資料の整理・研究・展示は重要な仕事です。博物館では、多くの資料に触れますが、何も考えなければただのものです。しかし資料の一つ一つに様々な情報(歴史)があります。私が勤めてから博物館では3回の展示会があり、その解説会では職員の様々な角度から様々な見方での説明があり、大変興味深いものでありました。その説明は「なぜ」という1つの問題からはじまり研究したものです。ここ数年自分は日々の忙しさにかまけて、「なぜ」を忘れていたことを痛感しました。

第二に、「説明の工夫」と「人との接し方」です。自分の勉強のため、来館団体と一緒に館内をまわり解説を聞くことがあります。幼稚園児からお年寄りまで幅広い年齢層の方が来館しますが、解説員やボランティアの方は声の調子を変えたり、時には身振り手振りを加えわかりやすく説明しています。例えば、第2展示室の「いろりばた」の説明で、ボランティアの方が電気を消し、昔の夜の雰囲気を出しました。小学生から「暗いので勉強しなくていいな」などの声が上がると、その代わりテレビもゲームもできずマンガも読めないことを話します。子供たちは昔と今の違い、現代の便利さを実感するわけです。また職員の現地調査に同行させてもらった時のことですが、つとめて柔らかく世間話をしながらも必要なことを聞き出していました。相手がわざわざ時間をつくってくれているなか、自由に語れるようあくまでも受け身の姿勢で接し、且つ効率よく調査しなければならないと感じました。

第三に、実物の資料の持つ力のすごさです。農具1つをとってもみても、授業では図説でしか見ることができないものを実際見ることで、「あーこうなっているのか」と実感します。実際、高校生を対象とした学芸員体験で、生徒たちは本物の土器や石器、地券などの古文書、化石や標本を手にとって扱い感動していました。学校での学



習とは違った一生懸命さが伝わってきました。博物館での教育活動も大切な仕事です。

最後に、若い女性職員が大勢の前で行っている講座がありますが、各回とも大きな拍手が沸き、凄いと感じます。自分ももっと努力しなければならないとおもいます。

栃木県立博物館友の会の活動状況

友の会事務局 金澤麻美

山形県立博物館ボランティア館外研修が**2009年9月2・3日**の日程で行われました。栃木県立博物館でも研修があったため、博物館職員でもある事務局の金澤が栃木県立博物館友の会の活動についてのインタビューを行いました。答えてくださったのは、栃木県立博物館友の会専務理事兼事務局長の永山亨さんです。

- 何名くらいの会員数なのですか。どのように運営しているのですか。

栃木県立博物館(以下栃木県博)友の会会員数は約450人です。友の会の職員がいて、事務局業務とミュージアムショップの運営をしています。ミュージアムショップのとなりに事務局室があります。会費納入などはミュージアムショップで受け付けています。



- ミュージアムショップについて教えてください。

ミュージアムショップでは友の会が印刷する県博展示会図録の他に、書籍やお土産品類を扱っています。商品のほとんどは仕入れているもので、友の会独自で製作したグッズ等はありません。

- 友の会主催行事にはどのようなものがありますか。

栃木県博友の会主催の講座、見学会、観察会、研修旅行などを多数計画しています。年間の友の会行事予定のチラシを皆さんに配付しています。

急にお話を伺ったのにもかかわらず、丁寧にご説明していただきました。活発な活動をしていることがうかがわれました。

最後に永山さんから「いつでも相談に乗ります。頑張ってくださいね。」との温かく心強いお言葉をいただきました。私たち友の会は発足して間もないですが、皆さんと協力してもっと活発な活動をし、山形県立博物館を支えていきたいと感じました。

